

食と緑の新城設楽地域 レポート 2023

－食と緑が支える豊かな暮らしをめざして－
(2022年度の実績報告)



令和5年9月

新城設楽農林水産事務所



目 次

1	食と緑の新城設楽地域レポート作成の趣旨	1
2	重点推進事項と目指す姿【目標】	2
3	重点推進事項ごとの主な取組事例	3
	(1) 新型コロナウイルス対策	3
	(2) 意欲ある人材の確保・育成	4
	(3) 持続可能な農林水産業の基盤を作る取組の充実	5
	(4) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進	8
	(5) 災害に強く安全で快適な環境の確保	10
	(6) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山村の実現	13
4	地域の特徴的な取組事例	14
5	目標達成状況	18

【表紙の写真】鞍掛山麓四谷千枚田保存会 小山舜二会長 撮影

1 食と緑の新城設楽地域レポート作成の趣旨

愛知県は、安全で良質な農林水産物が将来にわたり確保され、また、森林や農地等の有する多面的機能の発揮により安全で良好な生活環境を実現するための「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」（以下「条例」という。）を平成16年4月に施行し、その理念を実現するための基本計画「食と緑の基本計画」（以下「基本計画」という。）を平成17年2月に策定しました。

その後、令和2年12月には、第4期計画である「食と緑の基本計画2025」を策定し公表しました。

新城設楽農林水産事務所では、この基本計画の目指す姿の実現に向け、新城設楽地域の特徴と課題を踏まえ、新城設楽地域重点推進プラン（以下「地域プラン」という。）を令和3年1月に策定しました。

地域プランでは、令和7年度（2025年度）までに取り組む項目を「6つの重点推進事項」にまとめ、それぞれに「目指す姿（目標）」を設けて、その目標達成のための取組等を明示しており、基本計画の推進と共に地域として重点的に推進します。

この「食と緑の新城設楽地域レポート」は、地域プランの進行管理の一環として、地域プランの重点推進事項を着実に推進するために毎年度作成するもので、2023年版では、令和4年度(2022年度)の取組状況等と5か年の目標に対する達成状況を取りまとめています。

2 重点推進事項と目指す姿【目標】

（1）新型コロナウイルス対策

- ①農業経営改善計画及び青年等就農計画策定（変更含む）の支援【137件/5か年】
- ②生産施設整備等への支援【75件/5か年】
- ③木材生産における需給調整を効率化するための会議開催【3回/毎年】

（2）意欲ある人材の確保・育成

- ①新規就農者数【35名/5か年】
- ②新規林業就労者数【35名/5か年】

（3）持続可能な農林水産業の基盤を作る取組の充実

- ①新技術の導入又は技術の改善件数【8件/5か年】
- ②林道の整備延長【42.3km/5か年】
- ③県産木材年間生産量【104,000 m³/5年後】
- ④農業生産基盤等の整備更新受益面積【58ha/5か年】
- ⑤鳥獣被害対策受益面積の拡大【235ha/5か年】

（4）農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

- ①いいともあいち推進店のPR【24回/毎年】
- ②農林漁業体験やイベント、食育活動等の実施【21回/毎年】

（5）災害に強く安全で快適な環境の確保

- ①治山対策面積【825ha/5か年】
- ②農業用ため池の整備か所数【4か所/5か年】
- ③あいち森と緑づくり事業の防災・減災による公道沿い森林整備か所数【2か所/毎年】

（6）地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山村の実現

- ①中山間地域等直接支払交付金を活用した集落戦略の実践に向けた取組【102集落/毎年】
- ②各種イベントの情報発信【4回/毎年】
- ③道の駅など地域拠点における年間集客数の確保【1,193千人/5年後】

※網掛けが設定されている目標は、次ページ以降に具体的な取組事例を掲載しています。

※取組事例に記した課名は、担当課名を表示しています。

3 重点推進事項ごとの主な取組事例

(1) 新型コロナウイルス対策

生産施設整備等への支援【 目標：75件 / 5か年 】

農政課

【取組内容】

新型コロナウイルス感染症による景気への影響も徐々に薄れ、景気の回復に期待がもたれています。産地の生産力の強化のために、産地生産基盤パワーアップ事業、山間地営農等振興事業などの補助事業により、新たな機器の導入や施設整備に対する支援を実施しています。

【取組成果】

令和4年度は、下記の支援を実施しました。

補助事業	市町村	事業内容
産地生産基盤パワーアップ事業	新城市	いちご低コスト耐候性ハウス等
あいち型産地パワーアップ事業	新城市	カーテン設備・環境モニタリング装置 (いちご)
山間地営農等振興事業	新城市	プレーナーギヤング1台
山間地営農等振興事業	新城市	コンバイン (4条刈) 1台
山間地営農等振興事業	新城市	コンバイン (2条刈) 1台
山間地営農等振興事業	新城市	田植機 (8条植) 1台
山間地営農等振興事業	設楽町・東栄町	田植機 (6条植) 1台

【今後の取組】

引き続き、地域の要望を踏まえながら、計画的な支援を進め、各産地の生産体制の強化を推進します。



いちご低コスト耐候性ハウス



コンバイン (2条刈)

(2) 意欲ある人材の確保・育成

新規林業就労者数 【 目標：35名 / 5 年 】

林業振興課

新城林務課

【取組内容】

新城設楽地域では、愛知県労働局や全国森林組合連合会等が開催する就農林に係るイベントに参加して新たな担い手の確保・育成に取り組んでいます。また、森林組合や県立田口高校と連携しながら、新規林業就労希望者が計画的に管内で就労できるよう支援しています。

【取組成果】

あいち林業の仕事流域ガイダンスや就農林相談会の場において、新規就労に関する情報の発信や個別相談に応じるとともに、森林・林業技術センターが行う研修において経験の浅い就労者の技術の向上に向けて指導助言を行いました。また、県立田口高校林業科の生徒を対象に、高性能林業機械の操作体験会を開催しました。

令和4年度の新規林業就労者数は12名でした。

【今後の取組】

引き続き、関係機関と連携を取りながら就労相談や林業体験イベント等を行い、新規林業就労者を確保・育成していきます。



あいち林業の仕事流域ガイダンス



高性能林業機械の操作体験

(3) 持続可能な農林水産業の基盤を作る取組の充実

新技術の導入又は技術の改善件数【目標：8件 / 5か年】

農業改良普及課

【取組内容】

夏秋トマトは愛知県内の中山間地域における主要品目です。設楽地域では、6月から12月にかけて、養液栽培で「りんか409」を出荷しています。一方で、より果実硬度が高く日持ちが良い新品種「麗月」の市場評価が高いことから、産地として導入を検討する必要性がありました。そこで、「麗月」の設楽地域での栽培特性を明らかにするとともに、栽培管理の指針を作成して生産者に情報提供し、「麗月」の導入と定着に取り組みました。

【取組成果】

品種比較試験の結果から「麗月」は「りんか409」に比べ着果性が良く、高温や曇雨天時でも安定した収穫が見込まれることや、出荷率が高いことが確認できました。その一方で「麗月」は草勢が抑えられたり、果実が小玉になる傾向がみられたほか、開花から収穫までの期間が長いこと、茎が長くなりやすいこと等も明らかになりました。そして、これらの特性を生産者に広く周知しました。

令和4年は、日射量に比例して液体肥料の量を増減させる装置に合わせた栽培管理の指針を作成しました。これにより「麗月」を栽培するための技術的な組立ができ、令和5年では設楽地域15名の生産者のうち9名で栽培されることとなりました。



「麗月」の生育調査

【今後の取組】

現在「麗月」を栽培していない生産者に品種選択の判断材料となるよう栽培管理に関する情報提供を行います。また、夏秋トマト全体の生産性向上につながる新たな技術の実証に取り組みます。

林道の整備延長【 目標 : 42.3km / 5 年 】

林業振興課

新城林務課

【取組内容】

森林を適切に管理し、健全な状態を維持するためには、森林へアクセスするための林道が不可欠です。また、林業の採算性向上のためには、機械化による生産コストの低減や、トラック等輸送手段の大型化による輸送コストの低減が必要であるため、林道の役割は一層重要なものとなっています。さらに、林道は、山村地域の生活道や、災害時の緊急避難路としての役割も果たしています。

そこで、林道の開設を計画的に実施するとともに、既設林道の安全性と機能向上を図るため、改良や舗装を実施しています。

【取組成果】

令和4年度は、中口尤線ほか8路線2.7kmを開設しました。また、法面の保全工事など3.3kmの改良事業や5.2kmの舗装工事を実施しました。

【今後の取組】

引き続き、国の補助金を活用するなどして計画的に林道の整備を進めていきます。



過疎山村地域代行林道事業
中口尤線 3 工区工事（設楽町）



林道改良事業（改良）
塩瀬本線（新城市）

農業生産基盤等の整備更新受益面積【 目標：58ha / 5 年 】

建設課

【取組内容】

農業用ため池は、農業用水の供給だけでなく、自然環境の保全、水辺景観の形成、降雨時の洪水調節や土砂流出の防止などの多面的な機能を有しています。

一方で、農業用ため池のなかには、堤体の耐震性能や洪水吐の能力が不足し、大規模地震や豪雨によって決壊するおそれがあるため池もあります。

このため、国の補助金等を活用し、堤体の改修や補強、洪水吐や取水施設の整備を実施することによって、農業用ため池の決壊による農地・農業用施設、住宅、公共施設等の被害を未然に防止します。

【取組成果】

令和4年度は、新城市内の取水堰1か所、新城市内及び設楽町内の用水路1.3km並びに設楽町内の排水路0.7kmの整備・更新を実施し、合わせて58haの受益面積を擁する全4地区のうちの1地区が完了し、受益面積として12haの成果を上げました。

【今後の取組】

引き続き、国の補助金を活用して、農業用排水施設の整備・更新を推進します。



取水堰の整備（新城市布里地区）



水路の整備（設楽町田峯地区）

(4) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

いいともあいち推進店のPR【目標：24回 / 毎年】

農政課

【取組内容】

いいともあいち運動は、県民の方に、愛知県の農林水産業の応援団になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという運動です。また、愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい、利用していただきたいという「愛知県産地産地消の取組」でもあります。

この運動の中で、県産品の販売や利用に力を入れるスーパーや飲食店に対し「いいともあいち推進店」への登録を呼びかけています。

【取組成果】

令和4年度では、市町村への啓発資材の配布(4回)や、事務所Webページでいいともあいち推進店の店舗紹介や所在地図の掲載など、推進店の積極的なPRを実施しました。

また、20店舗に対し「いいともあいち推進店」への加入を働きかけ、新たに5件の店舗が加入し、新城設楽地域では計41店舗となっています。

【今後の取組】

引き続き、「いいともあいち推進店」への新規加入の促進や事務所WebページやSNSを活用したイベント情報の発信などを行い、いいともあいち運動を広める活動に取り組めます。

- ・いいともあいち推進店への啓発資材



のぼり



卓上のぼり



ステッカー



ポスター

農林漁業体験やイベント、食育活動等の実施【目標：21回/年】

農業改良普及課

【取組内容】

都市住民や若い世代に地域の農業や暮らしの技術を伝える農村女性グループ「農村輝きネット・しんしろ」と協力して、新城市広報「ほのか」に地元農産物を使った料理レシピを紹介しています。

新城市の広報「ほのか」は毎月発行されており、グループ会員が掲載時期に合わせた旬の農産物を選び、実際に調理・試食してレシピを作成します。

掲載計画の作成や料理試作、掲載原稿の執筆支援等を通じ、「農村輝きネット・しんしろ」の皆さんとともに、食育活動及び地産地消の取り組みを進めています。



レシピ料理試作の様子

【取組成果】

令和4年度は、新城市内の特産品であるトマトやサトイモ、ハウレンソウなどを使った料理レシピを毎月、年間で12回掲載しました。広報「ほのか」は、新城市内の全世帯に配布されるほか、市のWebページにも掲載され、多くの方が「農村輝きネット・しんしろ」の料理レシピを参考にしています。

今日のレシピ

ほうれん草常夜鍋

材料(4人分)

ほうれん草	4把
豚薄切り肉	300g
生姜	1斤
だし昆布	1枚
日本酒	100cc
白だし	大さじ2
塩	小さじ1/2
水	1500cc
小ねぎ	少々

しみのトビラ

原稿も海苔入編み組 日誌 23/7/23

作り方

- ① 鍋に水とだし昆布を入れて30分ほど置いておく。
- ② ほうれん草は、水でよく洗ってから粗朶を少し切り落とす。筋が多い場合は粗朶に十字の切り込みを入れ、長さを2等分に切る。
- 豚薄切り肉は、食べやすい大きさに切り、1枚ずつ凍らせておく。
- 生姜は、内れを落として皮をむき、薄切りにする。
- ④ ①の鍋を沸かす。沸騰直前で昆布を取り出す。日本酒を加えて煮立たせ、生姜の薄切りを加える。白だしと塩を加えて味をつける。
- ⑤ 豚薄切り肉、ほうれん草を加えて火が通ったら、食べる分だけ輪切りにし、小口に切った小ねぎなどの薬味を添える。

※ ほうれん草は、アクが気になる方は下茹でして使ってください。

豆知識

ほうれん草は馬蹄に「馬蹄」が漢字ですが、冬の寒さにあてて乾燥したもの、甘味が感じ、栄養価も高くなることから知られています。また、ほうれん草は、葉が鮮やかな濃い緑色で、根の部分の繊維が少なくて、甘味が楽しめるのが特徴です。葉の部分は、平ら袋に入れ、冷蔵庫の野菜室で保存して立てておくことで、鮮度が保ちます。

広報に掲載された料理レシピ

【今後の取組】

引き続き、「農村輝きネット・しんしろ」の皆さんと協力して、地元産農産物を活用した料理レシピの紹介に取り組みます。また、同グループは、クッキング教室での調理指導等も実施しており、これらの取組を含めた食育活動を支援します。

(5) 災害に強く安全で快適な環境の確保

治山対策面積【目標：825ha/5か年】

森林整備課 新城林務課

【取組内容】

治山事業では、山地に起因する災害を未然に防止するため、荒廃溪流には谷止工や流路工等を、山腹崩壊地には土留工や吹付工等を、落石危険箇所には固定工や落石防護工等の施設を整備しています。また、ダム上流や集落の生活用水等の水資源の確保上重要な水源地域においては水源地域整備事業を、山地災害危険地区の密集地などにおいては山地災害重点総合対策事業を、それぞれ地区指定事業として実施し、集中的に整備を進めています。

そのほか近年の特徴的な取組として、地域産材を活用した木製校倉式治山ダムの設置も進めています。



土留工（東栄町）



木製校倉式治山ダム（豊根村）

【取組成果】

令和4年度は流域保全総合治山事業を新城市で1地区、北設楽郡豊根村で2地区、山地災害重点地域総合対策事業を北設楽郡東栄町と豊根村の一部を含む1地区で実施し、予防治山事業や復旧治山事業等のその他の事業とあわせ、新城市で67ha、北設楽郡で101haの区域において、防災機能の向上が図られました。

【今後の取組】

市町村と連携して地元住民との調整を図り、地区指定事業等を活用して効果的に整備を進めてまいります。

また、山地災害危険地マップやパンフレット等を市町村に配付し、治山施設の役割などをPRして、災害防止意識を高めることにも取り組んでいきます。

農業用ため池の整備か所数【 目標：4か所 / 5か年 】

建設課

【取組内容】

農業用ため池は、農業用水の供給だけでなく、自然環境の保全、水辺景観の形成、降雨時の洪水調節や土砂流出の防止などの多面的な機能を有しています。

一方で、農業用ため池のなかには、堤体の耐震性能や洪水吐の能力が不足し、大規模地震や豪雨によって決壊するおそれがあるため池もあります。

このため、国の補助金等を活用し、堤体の改修や補強、洪水吐や取水施設の整備を実施することによって、農業用ため池の決壊による農地・農業用施設、住宅、公共施設等の被害を未然に防止します。

【取組成果】

令和4年度は、新城市内の農業用ため池3か所について、堤体の耐震補強、洪水吐や取水施設の整備を実施し、そのうち1か所のため池の整備が完了しました。

【今後の取組】

引き続き、国の補助金等を活用し、堤体の改修や補強、洪水吐や取水施設の整備を推進します。



取水兼緊急放流施設・洪水吐の整備
(新城市松葉池地区)



小曾池の整備 (新城市富岡東部地区)

あいち森と緑づくり事業の防災・減災による公道沿い森林整備か所数【目標：2か所 / 毎年】

林業振興課

新城林務課

【取組内容】

あいち森と緑づくり事業では、防災・減災の観点から公道・河川沿い、集落周辺の森林整備を重点的に実施しています。

新城設楽地域では、暴風雨や降雪を起因とする道路沿いの倒木により、道路の遮断や電柱折損及び高圧線断線等による停電が度々発生しました。そこで、道路に接する林帯を一定幅で伐採するとともに、危険木を移動・搬出することで、災害に強い森林整備を進めています。

【取組成果】

令和4年度は、公道沿いの森林整備を新城市で6か所、北設楽郡で8か所実施しました。

【今後の取組】

市町村や道路管理者など関係機関と連携し情報共有することで、より効果的に事業を実施していきます。



事業実施前



事業実施後

国道151号沿いの森林整備（東栄町）

(6) 地域住民や関係人口によって支えられる活力ある農山村の実現

各種イベントの情報発信【 目標：4回 / 毎年 】

農政課

【取組内容】

新城設楽地域は、自然豊かで歴史・伝統文化等、多様な観光資源に恵まれ、また、都市部から新東名高速道路の新城ICへのアクセスが容易になりました。

アフターコロナを受けて、屋外観光地への関心が高まっている状況でもあり、当地域で行われる都市と農村の交流イベントや、管内の魅力ある観光資源の情報などをWebを利用して発信し、都市部からの訪問者の増加を目指します。



川売の梅花まつり（新城市）
（令和5年3月1日フェイスブック掲載）

【取組成果】

当事務所のWebページ「しんせつネット」、愛知県のWebページ、フェイスブックなどにより、計7回（24件）管内のイベントや観光資源の情報を発信しました。



ジビエの森大感謝祭（設楽町）
（令和4年10月1日web掲載）

【今後の取組】

都市部からの訪問者を当地域の良き理解者、地域を支える人材として取り込めるように、積極的な情報発信を継続するとともに、都市農村交流の取組を推進します。



溪流マス釣り場 OPEN（豊根村）
（令和4年7月1日web掲載）

4 地域の特徴的な取組事例

豊根村におけるチョウザメ養殖とキャビア生産

農政課

◎取組の概要

豊根村は、愛知県で一番人口の少ない自治体であり、また、愛知県で一番高い山である茶臼山を有する「愛知のてっぺん」の村です。面積の9割以上を森林に覆われている山間地の豊根村において、村の新しい取組としてチョウザメの養殖が2012年からスタートしました。

チョウザメの養殖数は、豊根村や地元生産者の努力により着実に増え、魚肉については2016年からロイヤルフィッシュと名付けられ豊根村内で提供されています。

また、2021年度（令和3年度）山間地営農等振興事業により、養殖施設を整備しています。

◎取組の成果

チョウザメの養殖数量が増加するなかで、養殖スタートから10年後の2022年に初めてチョウザメからキャビアが生産され、豊根村では、ふるさと納税の返礼品として提供を始めました。

2021年度（令和3年度）山間地営農等振興事業により、養殖施設を整備したことにより新たに一名が就業しています。

また、2022年4月10日には、ロイヤルキャビアの生産発表会が行われ、広くPRが行われました。

◎今後の展開

県は、今後も生産者や豊根村と連携し水産業の振興を通じた地域振興のための取組を支援していきます。



ふるさと納税返礼品のキャビア



チョウザメ料理「ザメ重」

「広域農道奥三河線」の全線開通

建設課

◎取組の概要

奥三河地域の高冷地という特質を活かした農業の振興を第一の目的として、平成6年度から県営広域営農団地農道整備事業により整備を進めてきた「広域農道奥三河線」が、令和4年5月29日に全線開通しました。

当日は、開通記念式典が設楽町立名倉小学校まるねホールにて催され、テープカット及びパレードが現地にて行われました。

◎取組の成果

広域農道奥三河線は、設楽町の津具と東納庫をつなぐ奥三河地区の8,249mと、設楽町西納庫と豊田市小田木町をつなぐ奥三河2期地区の14,113mと、国道利用区間2,550mからなる全体延長24,912mの基幹的農道です。

北設楽郡3町村及び豊田市旧稲武町地域の農地1,770haと各種農業用施設を広域的な農業生産地として結び、名古屋など都市部の市場への農産物の運搬や農業資器材の搬入にかかる時間を短縮します。

なお、5月29日に奥三河広域農道推進協議会が主催した開通記念式典には、名倉小学校6年生の児童会長も出席し、令和3年度に県が工事現場で実施したPRイベントに参加した思い出を、生き生きと発表しました。



広域農道奥三河線（設楽町）

◎今後の展開

開通記念式典において、名倉小学校の児童会長が「この道を使って（名倉に）みえる人たちとふれあったり、僕たちがこの道を使っていろいろな町の人と交流したりしたい」「（名倉の）良さを他の地域の人に伝えていきたい」と発表しました。

まさに、農道としてだけでなく、過疎化や少子高齢化が進行する奥三河地域の活性化に資する交流の懸け橋としても、多大な効果が期待されます。

稲作におけるスマート農業の取組

農業改良普及課

◎取組の概要

中山間地の水田営農では、傾斜地に狭小な水田が存在すること、山に囲まれた地形ごとに水田が点在すること等が原因で、作業効率が良くありません。加えて生産者の減少や高齢化など、多くの課題があります。こうした中、省力的（軽労化）で安全に農作業を行うことができるスマート農業技術の導入を検討することが必要となっています。

このため、農業改良普及課では、新城市でリモコン草刈機による水田畦畔除草を、設楽町においては水位計利用による水管理の省力化の実証を行いました。



リモコン草刈機の検証で用いた2機体

◎取組の成果

斜度が40度程度の畦畔で、リモコン草刈機と慣行の刈払機による作業性を比較しました。この結果、リモコン草刈機の単位面積当たりの作業時間は8.1分/aと、慣行の46%になることが明らかになりました。また、リモコン操作で草刈ができるため、軽労化でき、傾斜地で作業者が転倒する危険性も減少しました。

水管理の省力化の検証では、水位計を設置したエリアで、田植えから収穫まで水田の見回りに要した時間数（水門の開閉含む）を集計し、従来の見回り時間と比較しまし



（ほ場に設置した水位計）た。水位計を設置した場合、生産者が自身のスマートフォンで水田の水位を確認できるため、巡回する必要がなく、1日当たり見回り時間は31分/日と慣行の43%になることが明らかになりました。

◎今後の展開

今後リモコン草刈機では、作業受委託やシェアリングなど、稼働率を向上させる体制の検討、水位計の利用では、引き続きさらなる省力化の検証支援を進めます。

地元小学校への森林環境教育の取組

新城林務課

◎取組の概要

県では、管内小中学校を対象に、森林・林業に関する理解を深めるため、森林環境教育を行っています。

令和4年度は、森林環境学習の一環として、鳳来東小学校で森林や林業に関する座学ときのご栽培・収穫の体験授業を行いました。

◎取組の成果

座学では、森林の機能やはたらき、人工林と天然林、循環型林業、林業という仕事等について、児童の理解を深めました。

体験授業では、森林・林業技術センターの協力を得て、短期間で簡単に栽培できる手づくりの栽培キットを使用しました。栽培キットは、切断したペットボトルの中にきのこ（ヤナギマツタケ）の菌を植え付けた菌床[※]を入れて栽培するもので、児童に湿度など簡単な管理をしてもらい、授業から約2週間後にきのこを無事収穫できました。

森林環境教育を通して、森林・林業や地域の産業について学んでもらうことができました。

※ おがくずなどの木質基材に米ぬかなどの栄養源を混ぜて固めたブロック



出前授業の様子



きのこ栽培体験の様子

◎今後の展開

引き続き、地域からの要請に応じた森林環境教育に取り組んでいきます。

5 目標達成状況

(1) 新型コロナウイルス対策

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①農業経営改善計画及び 青年等就農計画策定（変 更含む）の支援	137 件/ 5 か年	27	54	81	108	137	B
		20	51				
②生産施設整備等への支 援	75 件/ 5 か年	15	30	45	60	75	A
		16	32				
③木材生産における需給 調整を効率化するための 会議開催	3 回/毎年	3	3	3	3	3	A
		3	3				

(2) 意欲ある人材の確保・育成

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①新規就農者数	35 名/ 5 か年	7	14	21	28	35	A
		18	28				
②新規林業就労者数	35 名/ 5 か年	7	14	21	28	35	A
		8	20				

(3) 持続可能な農林水産業の基盤を作る取組の充実

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①新技術の導入又は 技術の改善件数	8 件/ 5 か年	1	3	4	6	8	C
		1	2				
②林道の整備延長	42.3 km /5 か年	8.4	16.9	25.3	33.8	42.3	A
		11.9	23.2				
③県産木材年間生産 量	104,000 m ³ /5 年後	75,600	82,700	89,800	96,900	104,000	B
		106,067	82,583				
④農業生産基盤等の 整備更新受益面積	58ha/ 5 か年	12	24	48	58	58	C
		0	12				
⑤鳥獣被害対策受益 面積の拡大	235ha/ 5 か年	48	96	144	190	235	C
		32.85	64.8				

(4) 農林水産業を理解し身近に感じる活動の推進

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①いいともあいち推進店のPR	24回/毎年	24	24	24	24	24	A
		22	24				
②農林漁業体験やイベント、食育活動等の実施	21回/毎年	21	21	21	21	21	B
		19	20				

(5) 災害に強く安全で快適な環境の確保

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①治山対策面積	825ha/ 5か年	165	330	495	660	825	A
		199	367				
②農業用ため池の整備か所数	4か所/ 5か年	1	1	3	4	4	A
		0	1				
③あいち森と緑づくり事業の防災・減災による公道沿い森林整備か所数	2か所/ 毎年	2	2	2	2	2	A
		17	14				

(6) 地域人口や関係人口によって支えられる活力ある農山村の実現

目指す姿	2025 目標値	上段：目標値 下段：実績値					評価
		2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	
①中山間地域等直接支払交付金を活用した集落戦略の実践に向けた取組	102集落/ 毎年	102	102	102	102	102	A
		102	102				
②各種イベントの情報発信	4回/毎年	4	4	4	4	4	A
		4	7				
③道の駅など地域拠点における年間集客数の確保	1,193千人 /5年後	1,149	1,160	1,171	1,182	1,193	-
		1,286	-				

○評価

- A : 2022（令和4年度）の目標達成率100%以上
- B : 2022（令和4年度）の目標達成率80%以上100%未満
- C : 2022（令和4年度）の目標達成率80%未満